

## 地域活力創出事業5

### 事業名

地域に飛び出せ看護学生アシスト事業

### 事業の概要

離島や中山間地域の活性化と保健医療従事者の育成を図るため、4大学の看護学生が、笠岡諸島、井原市美星町、高梁市宇治町の5地域に赴き、地域の人々の暮らしや地域医療等の現状を理解しながら、保健医療福祉の体験学習を行った。また、学生の地域行事への参加や民泊等を通じて地域と学生との交流を促し、中山間地域が活気づいた。

### 協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
<b>【大学】</b> 岡山大学 保健学科 岡山県立大学 看護学科 山陽学園大学 看護学科 吉備国際大学 看護学科	学生の地域派遣に関すること ・ 宿泊を伴う地区踏査 ・ 保健医療福祉の体験学習 ・ 地域医療従事者との座談会 ・ 地域行事への参加
<b>【地域代表団体】</b> 美星保健医療従事者育成支援実行委員会 NPO法人かさおか島づくり海社 宇治地域まちづくり推進委員会	学生の地域受入れに関すること ・ 学生と地域住民との交流会の開催 ・ 学生の地域体験学習への協力 ・ 地域行事に学生参加の準備 ・ 民泊等宿泊先の調整
<b>【市】</b> 井原市 笠岡市 高梁市	大学・地域代表団体へのサポート ・ 地域の保健医療等の情報提供 ・ 学生の体験学習の調整 ・ 地元組織との調整
<b>【県】</b> 備中県民局 健康福祉部	事業全体の統轄 ・ 事業企画会議の開催 ・ 事業の進行管理（現地同行を含む）

### 実施状況

大学	地域代表団体・市	地域	宿泊研修
吉備国際大学	宇治地域まちづくり推進委員会 高梁市	高梁市宇治町	8月 学生20名
岡山県立大学	NPOかさおか島づくり海社 笠岡市	笠岡市真鍋島 笠岡市北木島	9月 学生25名 10月 学生32名
岡山大学	美星保健医療従事者育成支援実行委員会 井原市	井原市美星町	9月 学生28名
山陽学園大学	NPOかさおか島づくり海社 笠岡市	笠岡市白石島	2月 学生33名



診療所医師との座談会



住民へのインタビュー



小学校でのインタビュー



高齢者サービスの体験



住民への健康教育



健康教室の体験



地域住民との座談会



民泊先でのふれあい

## 成果・効果

### (1) 学生(大学)の教育効果

- ・人々の温かさや地域愛が、地域を良くしていこうとする住民力を強化することを実感した。
- ・地域住民が一体となった健康づくりは、地域づくりそのものであることがわかった。
- ・事前学習から現地調査・体験学習(宿泊研修)、まとめまで一貫した演習により、地域の特性や健康課題を学ぶことができる教育ツールとして意義が大きく、継続してほしい。

### (2) 地域側の効果

- ・地域全体で学生を受入れ、交流会や地域行事等地域が活気づいた。継続して来て欲しい。
- ・地域の問題や活性化について学生と一緒に考えてくれて、励みになった。

### (3) 中山間地域の医療従事者の確保

- ・医療従事者の人材確保には、長期的に多種多様な施策が必要であるが、今年度事業を実施した大学から中山間地域の看護職として就職内定となった学生が見受けられた。

## 来年度以降に向けての展開

大学も地域も事業継続の必要があるとの評価から、4大学・5地域とも継続して実施する。大学には中山間地域での研修をカリキュラムに位置づけ、事業終了後も継続的に実施できるよう働きかける。

## 地域活力創出事業6

### 事業名

新段階へ！地産地消推進事業

### 事業の概要

食料自給率向上の目標を45%に定め、管内の農林水産業団体や消費者団体、商工・流通・観光団体、教育・行政機関等140団体で構成する「備中地域食料自給率向上対策会議（会長：備中県民局長）」が中心となり、食料自給率向上の重要性について普及啓発を図るとともに、地産地消や米の消費拡大など自給率向上に向けた取組を推進している。

平成24年度、構成団体による相互の情報共有を迅速化し、自給率向上に向け主体的な協働できる仕組みづくりを進めるため、生産者、消費者、流通関係者、商工業者、行政機関がインターネットにより情報を共有するシステム「ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク」の機能を「食料自給率向上対策会議」に統合するとともに、お互いが協力して情報の拡散を行うことができるFaceBookの仕組みを付加するなど情報発信・共有機能を高度化に向けてホームページをリニューアルを行っているところである。

### 協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中地域食料自給率向上対策会議 ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク会員	・事業の企画、立案、実施、実施状況報告
備中県民局	・企画への協力、助言、活動支援、補助金の交付

### 実施状況

#### 1 県内農産物を扱うレストランとの協働

##### (1) レストランと生産者の交流

- ・倉敷市（有機無農薬栽培さつまいも）、里庄町（復旧した耕作放棄地で栽培したマコモタケ）の農家をレストランシェフが訪問、農作業体験等の交流を実施（H24.10）。



倉敷市玉島（さつまいも掘り）



里庄町（マコモタケ）



##### (2) レストランから要望のあった野菜の試験栽培

- ・おかやま有機無農薬農産物生産団体「上組営農実行組合（高梁市）」で、レストランが

希望する農産物（コスレタス、スイスチャード、ビーツキオッジャ、紅芯大根など）の試験栽培展示ほを設置し（H24.10～）、試験販売を実施。



スイスチャード



ビーツキオッジャ



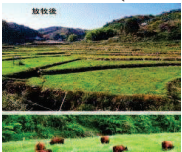
コスレタス



サボイキャベツ

### (3) 耕作放棄地に放牧されている短角牛を使ったフェアの開催

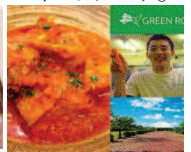
- ・高梁市で、耕作放棄地対策として放牧している短角牛の肉を使い、岡山市内のレストラン（プロポスタ、アルバーチョ、みつば等、5店舗）がフェアを開催（平成24年9月～）。



耕作放棄地と短角牛



岡山市内のレストランで提供されたメニュー



## 2 地産地消の推進（米粉・農産物）

### (1) 米粉・野菜を使ったスイーツフェアの開催

- ・管内の洋菓子店12店舗が、米粉、県内産野菜（さつまいも、ごぼう、れんこん、にんじん、トマト、かぼちゃ、しょうがなど）を使ったスイーツフェア開催（H25.2.1～3.20）。
- ・対象商品を購入、シールを3つ集めると、抽選で米粉や野菜を使ったケーキ教室に招待。



### (2) 米粉レシピの開発

- ・備中地域アンテナショップのある兵庫県宝塚市で、アンテナショップの食材を使った料理教室を開催（ミントキッチン 佐藤さとみ氏、計12回）。その中で、米粉を使った料理レシピを紹介（里芋のミートコロッケなど）。
- ・新見市米粉利用促進協議会が、地元の高校生との協働により米粉を料理レシピを開発。



## 3 本年度新たに登場、またはブラッシュアップした6次化商品の紹介

### (1) 赤米加工品（総社市、レッドライスカンパニー）

- ・総社市の赤米生産農家の6次化取り組み。
- ・インターネット、百貨店、直売所、宝塚アンテナショップ等で販売。



赤米味噌  
(ヒカリノミ)



赤米塩麴



シフォンケーキ  
(Syussui)



赤米甘酒  
(はれのひ)

### (2) 柚子加工品（井原市、岡山西農業協同組合）

- ・J A岡山西柚子部会加工部が井原市で生産された柚子果汁を使って製造。
- ・J A岡山西の直売所（井原愛菜館、山手直売所など）で販売。



柚子ジュース



柚子ぼん酢

### (3) 玄米餅（倉敷市、八十八俵堂）

- ・倉敷市の農業後継者の6次化取り組み。
- ・もち米の発芽玄米を使い、餅を製造、本年度はパッケージのリニューアル、インターネット販売を開始。
- ・他にも、餅やおこわ等を岡山・倉敷市内のスーパーや直売所で販売。



玄米餅

### (4) セミドライピオーネ（高梁市、方谷の里農産加工部）

- ・高梁市の農業者グループがピオーネをセミドライフルーツに加工。
- ・本年度はピオーネの樹を一本買い上げて安定的な加工体制を整備。
- ・新たに瀬戸ジャイアンツの加工、パッケージのリニューアルを実施。



ドライピオーネ

### (5) 梅干、桃のシロップ漬け（総社市、倉敷地方農村生活交流グループ協議会）

- ・既存の加工品の見直しを実施（パッケージ、包装容器、内容量等）。
- ・より安全なものとするため、食品衛生の観点から微生物検査を実施。百貨店でも販売できるよう検討中。



梅干

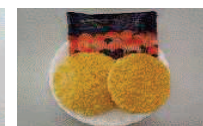


桃のシロップ漬け

## 4 農商工連携によって生まれた新商品

### ライスクラッカー（倉敷市、果実工房+八十八俵堂）

- ・倉敷市の製造業者「果実工房」が、(3)の農業後継者の朝日米と、岡山産のにんじんを使って開発（監修は東京の野菜スイーツ店「ポタジエ」シェフ柿沢安耶氏）。
- ・岡山駅及び天満屋岡山店で販売。



ライスクラッカー

## 5 備中地域の農業情報をまとめた情報誌の作成

- ・備中地域の農産物や加工品（3に掲載しているものなど）、直売所、農家レストラン等の情報をまとめた情報誌の作成（3月下旬完成予定）。

## 6 地域特産品の販路拡大

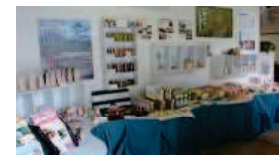
### (1) 関西方面に対する特産農産物PR（宝塚アンテナショップ）

- ・宝塚アンテナショップ特産品を活用した料理教室の開催（10月、計12回+イベント1回）。
- ・店頭イベントの実施（12月～2月、薫製倶楽部、岡山県漁連、レッドライスカンパニー、寄島町漁協など）。
- ・全国ふるさと観光物産展での農産物、加工品PR（9/17、大阪府豊中市）
- ・近畿おかやま会での加工品PR（10/2、大阪府）



### (2) 商談会への参加

- ・9/15～23に、倉敷アイビースクエアで開催された「龍の仕事展」への参加（赤米加工品、高粱紅茶、ドライピオーネ、米粉クッキー、柚子加工品、米粉等）。



## 7 食料自給率向上・地産地消に係る啓発

### (1) 倉敷駅前大型テレビでの食料自給率向上、地産地消啓発CMの放送（10月）

(2) 各種イベントにおける啓発

- ・ 龍の仕事展 (9/15～23、倉敷市)
- ・ 大地産地消まつり (9/21～23、総社市)
- ・ 井原線得々市 (10/7、井原市)
- ・ 大空と大地のカーニバル (10/21、笠岡市)
- ・ おかやまめぐり総合フェア (11/11、岡山市) 他



(3) 食料自給率推進大会の開催 (2/19、倉敷市)

- ・ アイビースクエアにて開催。関係機関、直売所、ビビッと備中会員等87名参加。
- ・ マナー講師による講演「聴くことから始める相手目線のコミュニケーション」、及び、備中管内の4事例の発表を実施。



8 情報発信・共有のためのWEBサイトリニューアル

- ・ 現在の「ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク」HPについて、Facebookの仕組みを付加し、さらに、会員が情報発信もできるよう、リニューアルを実施。

「ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク」-地産地消や食育を通じて、岡山県産地産品の消費を促進、岡山県産品の活性化を推進している。



成果・効果

- ・ ビビッと備中！会員同士で自主的な協働の取組が生まれた。
- ・ 地産地消、食料自給率向上にむけての気運が醸成された。

来年度以降に向けての展開

引き続き、食料自給率向上対策・地産地消運動の推進を行う。詳細は、平成25年度備中県民局協働事業の実施計画による。